

高・大・一般 漢字(楷書A)

※楷書A、Bは段級をとわず両方出品も可。



加藤 東陽

九成宮 醴泉銘 (欧陽詢)

①



(高閣) 周建 (高殿が高低いり乱れて建つ)

※落款(署名)には「東陽臨」と記してあります。「東陽(雅号)」が臨書した、という意味になります。



落款の記し方

- ・臨書の場合は「○○臨」とします。
- ・他者の作った文・文章で、漢字のみの場合は「○○書」とします。
- ・自分の作った文・文章の場合は、「書」を省くことが多いです。
- ・右の「○○」には、自分の名(太郎・花子など)や雅号(東陽・清泉など)を記し、姓(鈴木・田中など)にはしません。

〈解説〉

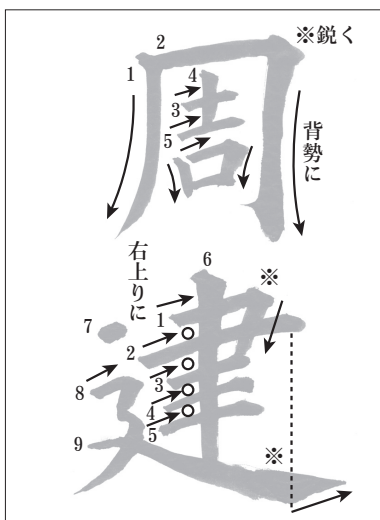
これから一年間、楷書の基礎として初唐の三大家(欧陽詢・虞世南・褚遂良)の代表作を取り上げます。

今回は欧陽詢(557〜641)の「九成宮醴泉銘」が課題です。四回にわたって学習します。本古典は欧陽詢が76歳の時に、勅命によって書かれたものです。それだけ精神の深さがあり、一種莊嚴の感に打たれます。欧陽詢の楷書は欧法と呼ばれ、古来から「楷法の極則」とされています。厳密で切れ味鋭い筆法と、端正な字形や背勢(点画が互いにそり合った形)などの特徴があります。

〈学習上の留意点〉

「周」：一、二画目の縦画は背勢にして二画目の転折(図の※印)は鋭く、角張らせるように書きます。また、「口」の縦画も背勢になるように心掛けましょう。

「建」：「建」は書写体です。横画はすべて右上がりにして、長短と画間に留意しましょう。さらに、最終画(図の※印)の右払いの長さや方向を見極めて力強く書きましょう。



高・大・一般 漢字仮名交じり書

新(10)級から五段までは作品用紙として画仙紙八ツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)の出品。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。



宮澤 鷺州



〈釈文〉春風や 闘志いだきて 丘に立つ

〈作者〉高浜虚子たかはまきよし

〈大意〉暖かな春の風を丘の上で全身で感じながら、また今から勇ましく戦おうと決めています。

春を迎えて心機一転、新たな決意を表明した句です。私事で恐縮ですが昨年体調を壊し、しばらく仕事から離れました。「いつかまた元氣を取り戻して復活を」と願い、この句を書きました。

気概と気迫が少しでも出るように、起筆では筆を立てて逆筆で入り、送筆も進行方向に抗あしが

うかのように運筆しました。平仮名は漢字との

調和を図るため、片仮名をイメージしてやや直

線的な運筆を試みました。

構成においては、図示したように字間(○印)

と墨継ぎ(●印)の位置に注意しましょう。

「闘志いだきて」では、「闘志」と「いだきて」

をそれぞれ対になるように構成しました。最後

の二行の落款は、俳句の筆使いや書風をあわせ

るとともに、余白や文字の大きさなどにも工夫

が必要です。

